

ロリィタファッションに関する研究

—着用者の視点から—

坂田 彩美

[指導教員：武庫川女子大学准教授 山本 泉]

キーワード：ロリィタファッション，着用者，見る人，ロリータ

1. 序論

ロリィタファッションは日本のストリートファッションである。フリルやレース、リボンなどで過剰とも言えるほど装飾したアイテムを組み合わせ、身頃はタイトフィットしており、大きく膨らませたスカートが特徴的なこのスタイルは、中世ヨーロッパの貴族を連想させる。海外においてもロリィタファッションは注目されており、アニメやマンガと共に日本のサブカルチャーとして受け入れられている。ロリィタファッション着用者が集まる「お茶会」は日本国内だけでなく様々な国で開催されており、その度に多くのロリィタたちが集まる。民族衣装や宗教服と融合したスタイルも確認されており、注目度を裏付ける。また、大きな特徴として、ロリィタファッション着用者は自らを「ロリィタ」とであると自称する。ファッションジャンルを表す時も、着用者自身を表す時も同じ言葉を使う。しかし、誕生から数十年が経つロリィタファッションは今なお好奇の目にさらされたりアニメやマンガのコスプレと勘違いされたりすることも少なくない。実際に、着用者である筆者自身も盗撮や声かけ、知らない人に追いかけてまわされるといった経験がある。着用者は不快な目に遭いながらもロリィタファッションを着ることをやめない。本研究では着用者の視点から、着用者がどのような意識でロリィタファッションを着用しているのかを探る。

本研究では一般的に「ロリータファッション」と表記されるファッションを全て「ロリィタファッション」で統一する。着用者の間において少女性愛を意味する「ロリータコンプレックス」との混同を避けるために「ロリィタファッション」や「ロリキタファッション」の表記が好まれる。この論文では着用者の意思を尊重し「ロリィタファッション」の表記を使用する。また、この論文での「ロリィタファッションブランド」は「雑誌などでロリィタファッションブランドとして扱われる」または「そのブランドが『ロリィタファッションブランドである』と主張している」のいずれかを満たすものとする。

2. 先行研究

ロリィタファッションはこれまでも書籍や学会誌等で取り上げられることもあり、現代ファッション論的な視点からそのルーツを探る論文も発表されている。ロリィタファッションのルーツを探り現在にいたるまでの歴史や、文学作品を元に着用者の意識に焦点を当てた書籍は確認されたが、実際

の着用者に話を聞いてそこから分析した論文は確認されなかった。このため、本論文で着用者の意識を扱うことにする。

3. ロリィタファッションとは

3-1-1 ロリィタファッションの基本的なスタイル

ロリィタファッションの外見的特徴は、カチューシャやボンネット、ヘッドドレス等の頭物を付け、スカートはパニエで膨らませることが挙げられる。また、生足を出したり、襟元を広く開けたりしない等、露出が嫌われる傾向が見られる。ファッションアイテムはロリィタファッションブランドのものや手作りのもの等、ロリィタファッションとして作られたもので全身を統一していることも、ロリィタファッション特有の傾向ではないだろうか。本論文で扱うロリィタファッションとは、ここでは松浦の定義を借り、①少女性を主張・強調するようなデザイン（レース、リボン、フリルなどのモチーフを多用する）②レーシング（編み上げ）やスカートのなかにパニエを入れて膨らみを作るなど、前近代のヨーロッパのデザインを取り入れたもの（機能は完全に同じとはいえない）③大人サイズではあるが、スタイル全体のイメージが十代の少女の印象にまとまるもの（P. 36）¹⁾とする。



図1 ロリィタファッション

3-1-2 ロリィタファッションの分類と特徴

ロリィタファッションは外観の特徴からいくつかに分類される。様々な書籍や雑誌等でいくつかの分類がされているが、それらをまとめると、大まかに3種類に分けることができる。パステルカラーを基調とし、お菓子や動物柄が多く見られる「甘ロリィタ」、茶やワインレッドのようなくすんだ色使いで無地や花柄の多い「クラシカルロリィタ」、モノトーンを基調とし、薔薇やクロス等ゴシックなイメージのモチーフが使われる「ゴシックアンドロリィタ」に分類される。



図2 甘ロリタ



図3 クラシカルロリタ



図4 ゴシックアンドロリタ

ロリタファッションの分類は、着用者の中で系統を意識していることや、系統ごとに地域差が見られたため、必要である。地域差については、このように3種類に分類した上でロリタファッションブランドの本社所在地やデザイナーの出身地を調査すると、甘ロリタに分類されるブランドは関東、クラシカルロリタやゴシックアンドロリタは関西に集中していることがわかった。このような偏りが生じている根拠は発見できなかったが、それぞれの地域特有の文化とロリタファッションの分類に関係があるのではないだろうか。

3-2 ロリタファッションのルーツ

現在のロリタファッションのスタイルを始めにロリタファッションと呼び始めた人物や雑誌、書籍は現在わかっていない。



図5 ロマンティックファッション

多くの文献でロリタファッションのルーツはロマンティックファッションであるとされているが、シルエットが大きく異なる。ディテールは共通するが、似て非なるものであり、無関係であるとは言い切れないが、ルーツとするには形

が大きく異なる。ロマンティックファッションを代表するPINK HOUSEの創業者であり初代デザイナーである金子功の発言から、日本人の体型を好ましく思わないという意識が読み取れるほか、デザイナーの意思により体型を隠すことを重視していることがわかる。

体のラインを隠すことを重視するロマンティックファッションに対し、ロリタファッションは、身頃はタイトフィットであり、膝丈のスカート为数枚のパニエで膨らませることが大きな特徴である。西洋の貴族服の丈を短くしたような形をしており、むしろウエストの細さを強調するようなシルエットをしていると言えるのではないだろうか。このような違いから、ロマンティックファッションとロリタファッションは似て非なるものであることが言える。ただし、全くの別物であるとも考えにくい。ロリタファッションを扱う雑誌や書籍において取り上げられるロリタファッションの世界で注目を集める人物はロマンティックファッションがブームだった1980年代にはすでに生まれており、当時の年齢も10歳代である。ロマンティックファッション系統のブランドから独立してロリタファッションブランドを立ち上げた人物がいることも確認された。これらのことから、ロリタファッションとロマンティックファッションは別のものであるが、無関係であるとは言えない。

3-3 小説『ロリータ』との関係

ロリタファッションの語源とされるウラジミール・ナボコフの小説『ロリータ』²⁾について、ロリタファッションを扱う文献においては関係がないことが強調されている。小説『ロリータ』は少女や幼女を性的対象として愛することを意味するロリータコンプレックスの語源にもなっているため、ファッションとしてのロリタと性的嗜好のロリータは別のものであることを強く意識しているのではないだろうか。しかし、ヒロインであるドロレス（ロリータ）の服装描写がロリタファッションと共通する特徴を持つことがわかった。ドロレスが着用していた服装の特徴をまとめると、身頃は身体に沿った形でスカートは膨らんでおり、現代のロリタファッションと形が似ていると考えられる。小説のストーリーやヒロインであるドロレス自身の実像とロリタファッションが関係するとは言い難いが、ドロレスの服装とロリタファッションは関係していると言えるのではないだろうか。また、小説の主人公であるハンバートがドロレスの中に見いだそうとしたニンフェットの性質と「少女的である」「小悪魔的な美しさ」というロリタファッションの要素が共通しているのではないだろうか。単に少女趣味的であるというのであれば「ロリータ（ロリタ）」である必要はなく、ロリータコンプレックスとの混同を避ける目的があるのであれば名前が定着するもっと早い段階で着用者によって別の言葉になっている可能性がある。これらの要素から無関係であるとは言えないと考える。

4. ロリィタファッション着用者の意識調査

実際の着用者の意識を探るため、聞き取り調査を実施した。アンケート調査ではなく聞き取り調査を実施した理由は、まずロリィタファッション着用者の数が多くはないことが予想されたこと、またロリィタファッション着用者であっても毎日ロリィタファッションを着用している例は稀でありロリィタファッションを着用していない時に対象者に遭遇しても対象者かどうか判別できないことが挙げられる。さらに、着用しているものとそれに対して本人がどう思っているのか、という踏み込んだ内容を聞き取ったためアンケートの設問では不足すると考えた。

聞き取り調査は知人を中心に関西在住の10歳代から20歳代女性8人に実施した。わかる範囲で兄弟構成をまとめると、調査した8人のうち、第一子でない場合も含めると6人が長女であった。年代や地域に偏りが生じたが、アンケートの設問からは聞くことができないところまで踏み込んだ意見を聞くことができたため、有用性があると考えた。聞き取り調査の方法は、1対1の対面で行い、会話の内容は全て録音した。インフォーマントには会話の内容を録音することや、会話内容を論文に掲載すること、学会等で発表することへの了承は得た。いずれのインフォーマントにも最初の質問として、自分自身がロリィタであるかという質問をしたところ、今回聞き取り調査を実施した人物は全員、自分自身がロリィタであると回答した。ロリィタを自称する際、精神面を根拠とする人と、ロリィタファッションを着用していることを根拠にする人がいたが、共通する認識として、毎日ロリィタファッションを着用するわけではないが、ロリィタであるという認識を持っていることもわかる。また、誤解の多いコスプレとの関係に関して、ロリィタファッションとは別に趣味としてコスプレを楽しんでいる人もいることから、ロリィタファッションとコスプレは別物であることも言える。そのほかにも、ロリィタファッションを着る前の格好やロリィタファッション以外の服装、ロリィタファッションとそれ以外の服装の境界、ロリィタファッションを着ていない人たちへの意見、ロリィタファッションを着るもしくは作る側への意見等、様々な質問に答えてもらった。さらに、会話の中で「ロリィタは文化」「ロリィタは生活」という発言もあり、着用者は単に装うだけがロリィタファッションではないという意識を持つことがわかった。

5. ロリィタファッションを見る人

5-1 調査の目的

ロリィタファッションを着ない人たちは、ロリィタファッション着用者とどのような違いがあるのか、インタビュー実施対象者と近い年代の人の傾向を見るために小規模な範囲でアンケート調査を実施した。

5-2 調査方法

同世代の女性が集まる武庫川学院堅忍寮の寮生に協力してもらった。この中にロリィタファッション着用者は含まれて

いないことは確認している。質問の内容はアンケート対象者自身について性別、年齢、職業、ファッション属性および購読雑誌、ロリィタファッションに関する質問としてロリィタファッションに対する印象、ロリィタファッション着用者に聞いてみたいこと等である。

これ以降、ロリィタファッションを着用しないだけでなく、コスプレとしてロリィタファッションのようなものを着用した経験がある場合も含めて、ロリィタファッションをスタイルとして着用しない人を「ロリィタファッション非着用者」とする。

5-3 調査結果と分析

- ・配布：2015/12/3
- ・回収：2015/12/3～2015/12/10
- ・対象：武庫川女子大学 堅忍寮 寮生およびチューター
- ・配布数：87
- ・回収数：43
- ・回収率：49.4%

アンケート対象者は筆者自身が所属する寮の寮生であるため、ロリィタファッションを見慣れているという強いバイアスがかかっている点に注意する。

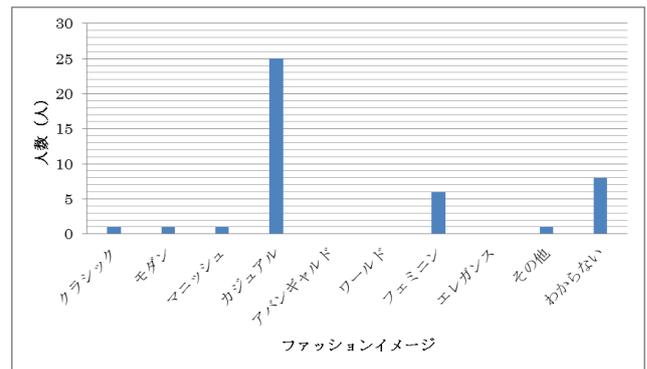


図6 回答者のファッションイメージ

回答者自身のファッションイメージに関する質問では、最も多かった回答が「カジュアル」「わからない」であった。現在「カジュアル」ということば自体が広い意味で使われるようになったことや、自分自身のファッションジャンルを意識していない上でカジュアルに当てはめて回答したケースも考えられる。ここからロリィタファッション非着用者はファッションジャンルを決めない、もしくはファッションジャンルが自分自身を表すものだと意識しているわけではないことが言えるのではないだろうか。また、ロリィタファッション着用者に対しては個人の自由であり、ロリィタファッションを強く否定する傾向は見られなかった。この調査の結果からは、ロリィタファッション着用者はこの世代の女性からは迫害されていない可能性がある。「ロリィタファッションを見た時にどう思いましたか」という選択式の質問をしたところ、「かわいい」について「よくわからないけどなんだかすごい」「不思議」という回答が続いている。ここからは通常のものではないという意識があることが言える。

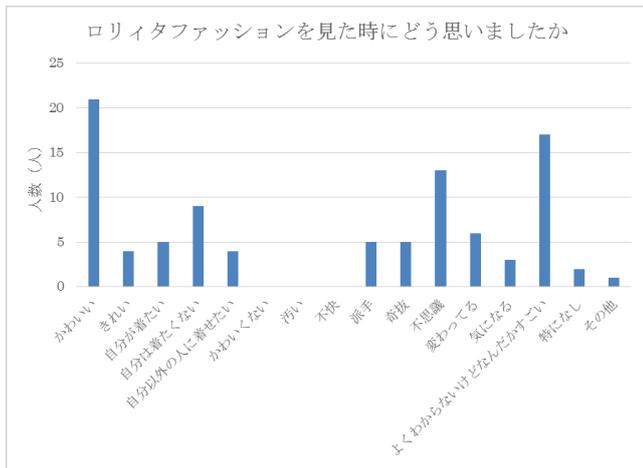


図7 アンケート設問とその回答

「かわいくない」「汚い」「不快」と回答した人はいなかったが、これは筆者が顔見知りであるため強い否定を表すことを恐れたとも考えられるが、今回の調査の範囲ではマイナスイメージは抱かれていない結果であった。自由記述の設問としてロリィタファッション着用者への質問という項目を設けたところ、ロリィタファッションを着用するようになったきっかけや洋服の購入場所、値段等を挙げていた。一番多かった回答が「ロリィタファッションを着始めたきっかけ」というところから、ロリィタファッションの着用には何か特別なきっかけがあると考えられているのではないだろうか。

6. ロリィタファッションを着る人と見る人

ロリィタファッション非着用者は、ファッションジャンルを決めない、もしくはファッションジャンルが自分自身を表すものだ意識しているわけではないのではないだろうか。それに対し、ロリィタファッション着用者は自分自身がロリィタファッションを毎日ではないが着用し、自分自身がロリィタであると名乗っていることから、ロリィタは着用者自身を構成するものの一つとして強く意識しているのではないだろうか。アンケートではロリィタファッションは個人の自由であるとの回答が多数派であり、またロリィタファッション着用者の周囲の人物も程度の差はあるが、彼女たちを受け入れているところがある。着用者の「奇抜な格好をして目立ちたいというわけではない」、「普通の私服とみなされるような時代が来るのが望ましい」という声からも、ロリィタファッション着用者は特別な扱いをして欲しいから、特異とされているロリィタファッションを着用しているわけではないことがわかる。しかし、そのような着用者の意識とは違い、今回の調査の範囲でもロリィタファッション着用者は盗撮や声かけの被害に遭った経験があると語っていた。また、アンケートの項目で、ロリィタファッション着用者に対する質問に関して、一番多かった「ロリィタファッションを着始めたきっかけ」を実際にロリィタファッション着用者に聞いたところ、テレビや雑誌などのメディアから知ったという回答が多く、次に友人が着てい

た影響、ヴィジュアル系バンドから影響を受けた、というものだった。これらのきっかけは現代に生活していればそれほど特別なきっかけではない。今回聞き取り調査を行った範囲では嶽本野ばらを強く意識している人もいたが、「ロリィタとしてこうあるべき」という彼の掲げるものを目標とする人と、「男性でありながらロリィタを理解している」という人がいた。しかし、今回の聞き取り調査では、嶽本野ばらの存在は知っているが作品を読んだことはないという声のほうが多かった。ここから、多くの先行研究でされている彼の作品による着用者意識の分析は当てはまらない可能性がある。これが着用者の世代によるものなのか、別の要因があるのかについては聞き取り調査を行う対象の年齢を広げる必要がある。

7. 今後の研究

今後の研究として、海外の動向との関係も研究の余地があると考えている。本論文でのロリィタファッションの分類には登場しなかったが、民族衣装や宗教装束とロリィタファッションが結び付いているものが確認されている。これらについて掘り下げることが出来たら、ファッションの新たなあり方について考えることができるのではないだろうか。

日本国内については、経済的な動きとの検証が考えられる。論文執筆を行った2017年現在、アパレル業界は決して勢いがある業界であるとは言えない。その傾向はロリィタファッション業界にも影響していると考えられる。2013年頃からロリィタファッションブランドが次々閉店している。中には倒産した企業もあり、店舗数は減少している。現在ロリィタファッション業界はアパレル業界と共に衰退しているが、アパレル業界そのものが勢いをなくした時期にロリィタファッションだけが違う動きをしていた可能性がある。着用者の意識を探ることと並行してこれらのことについても検証したい。

参考文献

- 1) 松浦桃: セカイと私とロリィタファッション, 青弓社, 2007, 第1版
- 2) ナボコフ, 若島正訳: ロリィタ, 株式会社新潮社, 2006, 5刷

画像

- ・図1～図4 監修 青木美沙子: ロリィタファッション BOOK, 株式会社マイナビ, 2014
- ・図5 装苑: 7, 1992